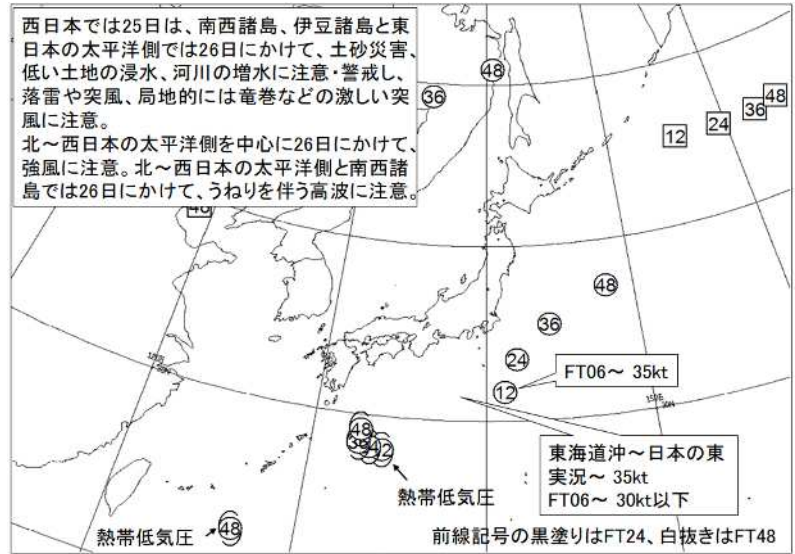


1. 実況上の着目点

- ① アリューシャンの南を東北東進する低気圧から日本の東に前線がのびている。
- ② 日本の南を熱帯低気圧が東進。近傍では積乱雲が発達し雷を検知。西日本の太平洋側を西進する気圧の谷に向かって、熱帯低気圧周辺の下層暖湿気が移流、九州南部で強い雨を解析。
- ③ 華中の高気圧と沖縄の南の高圧部との間で、南西諸島は気圧の谷となっている。②の熱帯低気圧に向かって南シナ海から流れ込む下層暖湿気の影響で、大気の状態が不安定となり、雷を検知、非常に激しい雨を解析。
- ④ 千島近海を東へ移動する高気圧と①の前線や②の熱帯低気圧との間で気圧の傾きが大きくなり、北～西日本の太平洋側を中心にやや強い風や強い東寄りの風が吹き、波が高くなりしけている所がある。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項②の熱帯低気圧は26日にかけて日本の南に停滞する。1項②の気圧の谷は25日は東シナ海に進んで不明瞭になる。また、1項③の気圧の谷は26日にかけて沖縄の南に南下し、26日夜までにこの位相上に熱帯低気圧が発生する。これらの熱帯低気圧周辺や気圧の谷に向かう下層暖湿気の影響で、西日本では25日は、南西諸島では26日にかけて、大気の状態が不安定となり、雷を伴って激しい雨が降り大雨となる所がある。土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒し、落雷や突風、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。
- ② 東日本を東進する500hPa 5820m付近のトラフに対応して、25日朝までに1項①の前線上に低気圧が発生し、前線は日本の東では不明瞭になる。この低気圧は、26日にかけて日本の東を北東へ進む。低気圧周辺の下層暖湿気の影響で、伊豆諸島や東日本の太平洋側では、大気の状態が不安定になり、雷を伴って激しい雨が降り大雨となる所がある。土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒し、落雷や突風に注意。
- ③ 1項④の高気圧は、25日は千島の東に、26日はアリューシャンの南に移動する。この高気圧と2項①の熱帯低気圧や2項②の前線及び低気圧との間では気圧の傾きが大きくなり、太平洋側を中心に吹送・吹続の長い東よりのやや強い風や強い風が吹いて、うねりを伴って波が高くなり、しける所がある。強風やうねりを伴う高波に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

- 4. 防災関連事項【量的予報等】 ① 雨量(06時からの24時間)：多い所(100mm以上)は無い。② 波浪(明日まで)：関東・伊豆諸島・近畿・四国・九州南部4、北海道・東北・東海・九州北部・奄美3m。③ 高潮(明日まで)：東日本では注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。

量的な予報については、今後の状況により変化する場合がありますので、注意報・警戒報や全般気象情報等に記述する数値を利用願います。